

河崎秋子さん直木賞受賞記念講演会

取材で伝え聞いた、開拓の裏にある庶民の暮らしを語る



作家の河崎秋子氏

7月27日、D20番教室において、本学卒業生で作家の河崎秋子氏の講演会「庶民が拓いた北海道の歴史」を開催した。この講演会は、河崎秋子氏が小説『ともぐい』で第170回直木賞を受賞した壮事を祝福し、「河崎秋子さん直木賞受賞記念講演会」として開催された。教職員・学生をはじめ、多くの一般来場者が訪れた。

はじめに、経済学部の前林英一教授から河崎氏のプロフィールが紹介された。河崎氏は本学で優秀な成績を収め、卒業後ニュージーランドで綿羊飼育を学んだ。帰国後は別荘にある実家の牧場で羊飼いをしながら執筆活動を行い、

「賞は北海道の歴史がいただいたもの」

河崎氏は現在、十勝で専業作家として活躍。「華々しい開拓の裏にある庶民の苦しみも楽しい暮らしがまだまだ埋まっている。小説というかたちで残していければ」と語った。

「賞は北海道の歴史がいただいたもの」と感謝を述べた。さらに、最新作『銀色のステイヤー』にも関わる馬について語った。明治期に一般庶民が北海道へ入り、原生林が茂る土地を畑にするため馬が使役された。厳しい冬を乗り越えた馬は、小柄ながらもとても強靱で根性も強い「道産子」となって、戦争や交通インフラでも重宝されたという。



多くの方が聴講に訪れた

2024年度 第1回市民公開講座

公共の再生と担い手 ——自治体消滅が話題になる中で考える

2024年度第1回市民公開講座が7月6日、B41番教室で開催された。人口減少が加速する中、北海道の各地域では格差・分断の現実とその困難が様々な形で浮彫になっている。本講座では「消滅可能性自治体」が取り沙汰されるなか、地域にとってあるべき方向はいかにあるべきか、とりわけその担い手は誰かに注目し、様々な立場から課題を浮き彫りにし、その方向性について解説した。

パネルディスカッションの報告

経済学部 山田 誠治 教授

ディスカッションは、パネラーの一人である川村先生の進行によって進められました。パネラー三人の視点がそれぞれ違っていたことが効を奏し、「担い手」のあり方やその条件、制度についてなど、様々な現場の経験と知見から意見が交わされました。フロアからは挙手が続き、地方公務員の立場からの共感的な発言、公務員への就職で悩む若者からの質問、組織や公務員のあり方への疑問、年配の方からの高い見地からの指摘、など、多方面からの質問と発言があり、この問題の深さが感じられました。

そして、地域連携の可能性については解決に向けての意見交換も交わされ、大きな課題としては、なぜこれ程の地域の公（おおよけ）の衰退が生じたのか、その解明の重要性が指摘され、個々の論者がとりあげる原因と結果を説明できる全体像を示す学際的な研究こそ、全学部が求められている課題であると浮き彫りにされました。参加者それぞれから、今後への課題が提起された静かで熱い討論でした。



講演3
公共サービスの担い手と
二つの非正規問題
経済学部 川村 雅則 教授

政府の言葉を借りれば、人への投資や賃金がコストカットの対象とされるような経済、市場や競争に任せ

れば全てがうまくいくという新しい自由主義的な考えに基づき、政治のこうしである「非正規大国」とも呼ばれる日本の現状をつくりだしてきました。本シンポジウムのテーマで言えば、公共部門がやせ細られ、地方への投資・富の再分配が削減されるなかで、自治体の財政はひっ迫し、非正規労働者に依存した体制にあります。いまや全国で100万を超



講演2
誰が今、公共を担うのか
経済学部 内田 和浩 教授

今日の人口激減の北海道として以下の5点を提起させていただきます。①北海道庁（各振興局）の職員が、市町村で働くことはできないか。②郵政局への業務委託はできないか。③元気な高齢者住民が、「プロ」として働く。④中学生、高校生が担い手に

え、今やブラック企業と呼ばれ、慢性的な人手不足が続いています。また、地域に目を向けてみると、町内会自治会、PTAなどの加入率の低下に反比例するように、防災やコミュニティ・スクール、部活動の地域移行など、地域に求められる役割が増えています。今回の講座では、このような状況を学際的に解明してほしいという受講者の方の声がありました。地域づくりやその担い手の育成を、学際的な研究と公務労働の現場が融合して取り組んでいく必要性を感じました。



講演1
厳しい地方の担い手不足
——公共サービスの現場から——
元自治体職員・自治体研究者 原田 賢一 氏

私が就職したのは1990年、バブルが崩壊したといわれたのは1991年。まさしく失われた30年を地方公務

員として過ごしてきた私の経験を話させていただきます。この30年は、バブルの崩壊に始まり、北海道では銀行の破綻を目の当たりにしました。その後、地方分権、三位一体の改革、集中改革プランなどが推し進められ、地方自治体の運営体制は、どんどん厳しい状況に追い込まれて行きます。その結果、自治体行政の現場は、職員が15%も減少するとともに業務量は増

銀色のステイヤー
河崎秋子(経済学部平成13年度卒・49期生)著
定価 一、八七〇円(税込)

硫黄島上陸 友軍八地下二在り
酒井聡平(人文学部平成11年度卒・4期生)著
定価 一、六五〇円(税込)

40歳から凡人として生きるための文学入門
森川慎也(人文学部教授)著
定価 二、六四〇円(税込)

北極域の研究 その現状と将来構想
北極域研究コンソーシアム長期構想編集委員会編
高橋美野梨(法学部准教授) 編集委員 他共著
定価 四、九五〇円(税込)

刑法演習サブノート210問 第2版
井田良太郎(法学部准教授) 編著 瀬川行太(法学部准教授) 他共著
定価 三、一九〇円(税込)

権威主義化する世界と憲法改正
溝口修平 編著 岩坂将充(法学部教授) 他共著
定価 二、五三〇円(税込)

漁業と震災(漁業と震災)
濱田武士(経済学部教授) 著 趙宏杰 訳
8990円
外語教学与研究出版社

即時レスポンスを高める
『9マス英会話』の教材開発

経営学部教授 内藤 永

盛岡市出身。東北大学文学部（英語学）卒業。東北大学大学院文学研究科前期課程・後期課程修了。博士（文学）。旭川医科大学教授を経て、現職。専門はその現場で使う英語の言語学的特徴を研究・教育する（ESL (English for Specific Purposes)）。

日本人にとって英語学習上の最大の悩みはスピーキングである。プレゼンやスピーチは、原稿を用意することができると、話し相手と自分のやり取りするとなると「英語がなかなか出てこない」という困難にぶつかるといえる。これは本学の授業である「英語コミュニケーションII」のような科目でも、企業が海外展開する上で行う国際見本市、ビジネスミーティングでも起きる問題である。

本学術研究助成事業では、この英語が出てこない問題を解決すべく、英語で即時レスポンスする教材を開発した。この教材は、(1) 脳内で行われる言語処理の中

日本人が苦手な英会話に効果発揮

クとなる。言語トレーニングしたものが同一になることを確認する際には、日本語やジェスチャーを同一にする。



Web アプリのイメージ

この教材は、(2) 学習者が過度にこの言語処理プロセスを意識することなく、段階的に学習の難度を上げる工夫をしたこと、(3) タスクが毎回異なるため、繰り返し練習ができること、以上の3点に特徴がある。また、学生たちが手軽に使用できるようにスマホで表示できるWebアプリとして開発している。

実際にこの教材を使用したところ、学習者の英語力向上に効果的であった。特に、スピーキングの練習に効果的であった。また、学習者の英語学習のモチベーション向上にも効果的であった。この教材は、英語学習の教材として、広く活用されることを期待している。

研究室の窓

工学部准教授
鈴木 雄

インクルーシブな社会、それは現代において、すべての人が尊重して生きられる社会のことである。包摂的な「包括的な」を意味する「インクルーシブ」という言葉は、SDGsの17の目標のうち5つの目標で使用されている。誰一人取り残さない社会の実現を目指すためには、インクルーシブな社

会インフラの整備が必要不可欠である。さて、私は普段、都市や交通のあり方について研究を行っている。都市や交通の整備からインクルーシブな社会を実現することは重要である。ここで、子どもの遊び場である公園について考えてみたい。国連・子どもの権利条約において、「遊び」はすべての子どもが持つ権利として認められている。既存の公園にて、すべての子どもが思うように遊べているだろうか？ 障がいのある子どもが公園で遊ぶことができない背景に、欧米諸国を先例として、誰もが一緒に遊

インクルーシブな
都市・交通環境を目指して

べる遊び場の設計および開発が進められた。日本でも、2021年に東京都より「だれもが遊べる児童遊具広場」整備ガイドラインが発表されたことなどを背景に、近年整備が進んでいるのがインクルーシブ公園である。インクルーシブ公園とは、障がいのない子どもと障がいの子どもが共に遊ぶことをコンセプトとした公園である。札幌市の農試公園でも、2023年にインクルーシブ遊具を設置している。車いすのまま登れるスロープや、車いすのまま遊べる砂場、自力で姿勢を維持できない子どもが公園で遊ぶことができない背景に、欧米諸国を先例として、誰もが一緒に遊

でも遊べる遊具、視力の弱い子どもが見やすい色の遊具などが導入されている。私が過去に千葉県柏市のインクルーシブ公園で行った調査では、障がいの子どもがのびのびと遊べる環境が整えられたことが示された。その一方で、現状では障がいの子どもと障がいのない子どもが一緒に遊ぶようにはなっておらず、課題もみられる。

人文学部准教授
杉江 聡子人文学部准教授
杉江 聡子

近年、生成AIなどの新技術が教育にも導入され、教育パラダイムに革新が起きています。AIやICTの最大の利点は、知識やスキルの共有を容易にし、データ処理を自動化・高速化する

未来展望

より、教師と生徒の関係をより対等に近づけることが、AIと並ぶ新技術としてXR（クロスリアリティ）があります。XRは現実とバーチャルを融合させ、時空間の制限なく、自由でリアリティのある学習体験を提供します。メタバースやVR仮想現実（VR）は、実践的なコミュニケーション文脈において、失敗や予期せぬ状況への対応力を養う環境として有効です。

教育の未来を拓く生成AIとXRの可能性

公平な学びと新たな学習体験を実現する新たなテクノロジー

この世界を融合させ、時空間の制限なく、自由でリアリティのある学習体験を提供します。メタバースやVR仮想現実（VR）は、実践的なコミュニケーション文脈において、失敗や予期せぬ状況への対応力を養う環境として有効です。ただし、AIはあくまでも人間の判断を補助するプログラムであり、感情や悩みを持つわけではありませぬ。AIを適切に活用することで、個人の能力を拡張・延伸し、不足している情報を補完できる。AIは文章生成、多言語翻訳、長文要約などの言語能力を補佐する強力なツールとして活用されています。

第33回 人文学の挑戦

「第33回人文学の挑戦」が5月18日、紀伊國屋書店札幌本店で開催された。講師は昨年3月に刊行された『あたたかき日光』三浦綾子・光世物語の著者である人文学部・田中綾教授。さらに、落語家の林家つる子氏を迎え、北海道テレビアナウンサーの大野恵氏が司会を務めた。大野氏は三浦綾子ファンであり、「南平亭恵明（なみへい）の高級名で落語も披露している。

『氷点』と『笑点』—三浦綾子と落語！—

田中先生は、三浦綾子の著書から、「笑点」は、できる限り見たいと思っている番組」という綾子の言葉を紹



右から、人文学部・田中綾教授、林家つる子氏、大野恵氏。

介。さらに「笑点」のタイトルは、ベストセラーとなった『氷点』に由来するというユニークな接点があった。続いてつる子氏は、落語を始めたきっかけや修行時代を紹介。男性が創ってきた落語の演目の主人公が女性だった、という挑戦について語った。ユーモアあふれる話に、会場は終始笑いに包まれた。

最後に、事前に募集した質問に田中先生とつる子氏が応えた。鋭い質問や熱心なメッセージに、和やかな雰囲気の中で幕を閉じた。

第34回 人文学の挑戦

6月30日、「第34回人文学の挑戦」が開催された（場所は同上）。講師は『嵯峨院時代の物語の研究—「石清水物語」と「若の衣」—の著者である人文学部・関本真乃准教授。さらに、京都大学大学院・金光桂子教授をお迎えした。

『源氏物語』の女君たち

大河ドラマでも注目を集める『源氏物語』その光源氏に愛された女君、藤原紫の上について見解を述べた。また金光先生が、藤原紫について解説。藤原紫は亡き桐壺更衣に似て、後には源氏との逢瀬が描かれた和歌から「秘密のメッセージに、和やかな」



人文学部・関本真乃准教授（右）と京都大学大学院・金光桂子教授

抑えてきたか」という心情や人物像を読み解いた。次に関本先生が、紫の上について解説。紫の上と源氏と結ばれる紫の上だが、年を重ねるごとに嫉妬の感情表現が変わっていく変化を追った。関本先生は、紫の上が詠んだ和歌から「一人の女性が成長し、恋愛関係を築く中で、傷つき、諦め、成熟していくさまが精緻に描き出されている」と考察した。

会場には多くの古典ファンが集まり、女君たちの心の機微の解説に耳を傾けた。

教員交換プログラム
中国・瀋陽農業大学から
周教授着任

学校法人北海学園と中国・瀋陽農業大学との交流協定に基づき、令和6年度の交換教員として周教授が7月22日、本学に着任した。専門は中国農業政策。周教授は、全4回にわたる特別講演会を行った。講演は本学の中国語担当教員が通訳する形式で行われ、中国に関心のある学生が多数参加した。任期は7月31日まで。



講義をする周教授

iRIC講習会参加者募集

北海道河川財団寄付講座環境防災工学研究室的清水康行特任教授を中心に開発普及が進む、河川解析ソフトウェアiRICの講習会を左記要領で開催いたします。iRICは氾濫・土石流等の様々な河川の現象を解析できるフリーウェアです。高校のSSHの課題研究でも使われるなど、使いやすさ魅力となります。河川防災や環境などに興味のある方は、奮ってご参加頂ければ幸いです。

日時：令和6年10月31日、11月1日 9時～17時
場所：北海学園大学豊平キャンパスAV4教室
参加費：本学教職員・学生は無料（定員になり次第締め切らせて頂きます）
その他：実習になりますのでiRICをインストールしたPCをご用意ください。
問合せ：申込先・工学部社会環境工学科 鈴木洋之（内線7872）

このホームページは
こちらから





防災ワークショップの様子

HGUSOS 防災ワークショップ

今年の元日に能登半島地震が起き、大学からは災害時対応マニュアルが発行されましたが、学生の災害への意識は低いままであると感じたため、災害時に正しい行動をとることができる学生を一人でも多く増やしたい、このワークショップを企画しました。集客のためポスターの学内掲示やG・P・L・U・S!での告知メッセージ配信、講義内での告知、HGUSOS公式SNSでの告知等を行いました。24名からの申し込みがあったものの、当日の参加者は16名となりました。当日は過去の災害事例を紹介したり、参加者には本学作成の災害時対応マニュアルを配布。そして災害伝言ダイヤルを実際に利用していただきました。また、避難所運営ゲームDのほくでは講師のDはマスター・飛騨様と北海道庁振興局高田様をお招きし「避難所を運営する立場」として、災害発生時の避難所の対応を考えることで、災害時に本当に使える知識を実践的に学んでいただくことができました。イベントを通して、参加者だけでなく当日出勤したスタッフ13名も、災害時に率先避難者として適切な行動ができるよう学べた良い機会になりました。

今回の防災ワークショップは初めての開催でしたが、多くの参加者からまた開催してほしいという声をいただきました。今後も継続して開催し、さらに多くの学生に災害時の正しい知識を持ってもらえればと思います。(文：経営学部経営学科3年 鈴木素希)

第61回 法学部カフェ

LGBTQ+にとって 当たり前となるための具体的な変革

法学部は7月5日、B42番教室において、LGBTQ+問題に精通する法学者で明治大学教授の鈴木賢先生をお迎えし「LGBTQ+のこれから」をテーマとした第61回法学部カフェを開いた。進行はさっぽろレインボープライドの満島てる子氏、聞き手は琉球大学准教授の李妍淑先生が務めた。鈴木先生は、今回のワークショップは初めての開催でしたが、多くの参加者からまた開催してほしいという声をいただきました。今後も継続して開催し、さらに多くの学生に災害時の正しい知識を持ってもらえればと思います。(文：経営学部経営学科3年 鈴木素希)



左から、満島てる子氏、鈴木賢教授、李妍淑准教授。



ヴァイキング船の復元に使うオーク材の横でヴィリスと筆者(ヴァイキング船博物館、デンマーク)

2023年4月から一年間スウェーデン農科大学の南スウェーデン森林研究センターで客員研究員を務めた。同センターには造林学、病理学、生態・保全学、政策・計画学の四つの研究グループがあり、私はヴィリス・バルカス教授が主宰する政策・計画グループに所属した。キャンパスは、コペンハーゲンを対岸に臨むスウェーデン第三の都市マルメの近郊アルナールにあった。バルト海をのぞむ農地に囲まれた緑あふれる美しい学び舎だった。

スウェーデンにおける森林政策の研究

能っているのかどうかはともかく、森林管理の質が民間の力量に大きく左右されることを意味する。私が注目したのは、森林所有者にとって最も身近な存在である森林組合(森林所有者が林地の経済的価値を高めるため、自ら出資・利用・運営する協同組合)の取り組みである。

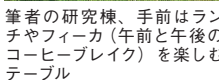
とはいっても、なにしろ初めて訪れる国で、右も左も分からない。文献と統計の収集・分析から着手し、同僚に教える請

研究のテーマは、「スウェーデンにおける森林組合の史的展開と最新情勢に関する実証的研究」である。スウェーデンの森林政策は、世界に先駆けて林業生産と環境保全を同列の目標に設定したことで有名だが、その実行手法として「責任ある自由」を掲げたこともまた知られる。

森林管理に果たす政府の役割を限定し、民間にその多くを委ねる仕組みは、それが実際に機能しているのかどうかはともかく、森林管理の質が民間の力量に大きく左右されることを意味する。私が注目したのは、森林所有者にとって最も身近な存在である森林組合(森林所有者が林地の経済的価値を高めるため、自ら出資・利用・運営する協同組合)の取り組みである。

い、月一のセミナーに顔を出し、手ごたえらしきものをいくつかの夏の手ごたえからムチを入れ、冬に何とか森林組合の現地取材にこぎつけた。真意を探るべく質問を重ね、55年分の経営書類を地下書庫から引っ張り出し、ひたすらそれをカメラに収めた。

最後に。妻と、小学生の息子と娘は「なぜ、スウェーデン?」と首をかしげながらも、面白そうだと着いてきてくれた。不慣れな地ではあったが、心引くような出来事は一つもなく、スウェーデンの暮らしに慣れ親しんだ。それぞれが出会いを重ね、友人をつくり、いまでも交流が続いていることがとてもうれしい。



筆者の研究棟、手前はランチやフィーカ(午前十と午後のハイブレイク)をテーブル



緑あふれる初夏のキャンパス

トピックス 76

「論理的思考力を身に付けることが重要だ」という見解は、一見するともっともらしく、かつ、この現代社会においては広く支持を集めるでしょう。そして同時に、論理学という学問を学ぶことを強力に意義づけるようにも思われます。実際、上のよう



法学部准教授 高谷 遼平

いから論理学の授業を履修する学生もいるのではないのでしょうか。とはいえ本当に論理学は、多くの人が期待するほどに、また、多くの人が期待する形で「役に立つ」ものなのでしょうか。私は今年度から一般教育科目の「論理学Ⅰ・Ⅱ」を担当しています。論理学を教えている張本人がこのような疑問を呈するのは穏やかではないです、ちやぶ台返しのように映るかもしれません。しかしこの疑問は、事実、大学で論理学を教える教員の多くが抱えてきたものです。というのも、大学で一般的に教えられる論理学

論理学への招待

は、日常生活や(哲学など一部の例外を除いた)学術的学びに直接的な仕方では役立つとは言い難いから、論理学は論理学という一つの学問体系であり、おそらくあらゆる学問分野と同様にそれを何か別物に役立つ実践的道具、オルガンとするのは容易ではありません。さらに言えば、私の考えに反して論理学を学ばなければ自動的に論理的になれるのだとしても、論理的になるための方法はその他にも無数に存在しています。論理学が唯一の手段ではないのです。ではなぜ、それでもなお論理学を学ぶのでしょうか?

か。上の文章のどの箇所が論理的な推論で、どこが論理的飛躍や私の個人的見解なのか説明できるかた、素晴らしいです。その論理的思考力を存分に発揮するために論理学を学ぶことをおすすめします。論理学は他には無い知的興奮を与えてくれます。うまく説明するのは難しいというかた、是非論理学を学びましょう。論理学は論理的であるために必要でも十分でもないかもしれませんが、真剣に論理学に取り組むことが論理的思考力を身に付ける一つの、しかし有力な方法であると私は信じています。どちらの道も論理学に通じています。みなさん、論理学を学んでみませんか?

北海学園大学同窓会(豊平会)

奨学生認定証授与

同窓会(豊平会)は優秀な学業成績をあげたことが認められた学生19人を第1種奨学生として認定しました。

北海学園大学同窓会第1種奨学金給付学生

学部/学科	学年	氏名
経済学部/経済学科	4年	水柿 葵
経済学部/経済学科	2年	和田 朱里
経済学部/地域経済学科	2年	大和 柊花
経済学部/地域経済学科	2年	齊藤 ひな
経営学部/経営学科	3年	久保木真理
経営学部/経営学科	2年	濱田 領
経営学部/経営情報学科	3年	稲岡 大地
法学部/法律学科	4年	高山 妃香
法学部/法律学科	3年	佐藤 月碧
法学部/政治学科	4年	岡田 秀斗

学部/学科	学年	氏名
法学部/政治学科	4年	今井もも香
人文学部/日本文化学科	4年	布谷友梨奈
人文学部/日本文化学科	3年	内嶋 心羽
人文学部/英米文化学科	4年	佐藤名那子
人文学部/英米文化学科	3年	新田 奈央
工学部/社会環境工学科	3年	坂野 剛正
工学部/建築学科	2年	齊藤 清人
工学部/電子情報工学科	3年	岩間 壮汰
工学部/生命工学科	2年	小野寺優輝

教育振興会

奨学金B授与

教育振興会は、奨学金B(「学業成績が特に優れている学生への奨学金」)を9人の学生に給付します。教育振興会の趣旨に賛同する多くの方々からのご芳志により、今年も1人あたり30万円を給付します。

奨学金B給付学生

学部/学科	学年	氏名
経済学部/経済学科	4年	勝山 貴康
経済学部/経済学科	4年	松崎 晃佑
経営学部/経営学科	4年	岡本 和
経営学部/経営学科	4年	木下優里菜
法学部/法律学科	4年	古木 大地

学部/学科	学年	氏名
法学部/政治学科	4年	本崎 悠仁
人文学部/日本文化学科	4年	木村 日和
人文学部/日本文化学科	4年	佐々木佳穂
工学部/生命工学科	4年	大井 幹那



実験生物に黙祷を捧げた

実験生物に感謝する日
6月12日、工学部3号館生命系学生実験室1において、学内関係教職員、学生が参加して、生命工学科の研究・教育に供された実験生物に対する感謝と追悼の意を表す会が行われた。森下学長の感謝の言葉が読み上げられたあと、参加者による黙祷が捧げられ、研究・教育の発展が動植物の犠牲の上に成り立っていることを再認識し、改めて研究・教育に従事することを誓った。

同窓会・豊平会が大学生協食堂で「100円満腹丼」提供

北海学園大学同窓会・豊平会 満腹丼は売価600円(税込)のうち500円を同窓会が負担している。昨年度から7月5日まで週に1回(計5日)、豊平キャンパスと山鼻キャンパスの生協食堂において提供した。100円満腹丼の日程とメニュー

6/3(月)	6/11(水)	6/19(火)	6/27(木)	7/5(水)
鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁	鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁	鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁	鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁	鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁、鶏肉の味噌汁、豚肉の味噌汁

お詫言と訂正
学報138号(2024年6月1日発行)に誤りがありました。
3面「岩田地崎建設株式会社から寄付金受領」の写真キャプション
「(正) 岩田地崎建設株式会社代表取締役社長
(正) 取締役専務執行役員 佐藤 正 学長訪問」4行目
「(誤) 株式会社岩田地崎建設
(正) 岩田地崎建設株式会社
関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫言申し上げます。

2024年4月1日 国際交流課を発足

学生留学、外国人留学生受け入れの更なる環境整備へ。

2024年4月に「国際交流課」が設立され、北海学園大学における国際交流は新たな時代を迎えます。日本の学生は内向的とされがちですが、同時に世界へ飛び出す意欲を持つ学生も増えている現状があります。国際交流課は、こうした学生たちの意欲を支援し、より多様な国際交流の機会を提供することを目指しています。



国際交流委員長
経営学部教授
石井 晴子

令和6年4月1日から北海学園大学に国際交流課が設置されました。今までは庶務課の学術・国際交流係として学生の留学等のサポートを行っていましたが、今後大学として学生の海外への派遣、海外からの受け入れという「国際交流」を活性化させるために、より特化した形で学生の活動を支援する必要性から課の設置に至りました。

国際交流課の業務は学生の留学（本学協定校への留学を中心にワーキングホリデー等）に関する相談・情報の提供を行うだけではなく、教職員の海外渡航に関するサポート（海外での学会発表等における学内手続き等）や大学で取り扱っている国際交流系の委員会を運営する等多岐にわたっております。また、以下に記載するように様々な国際交流に関するイベントを開催することで、本学学生に「世界を身近に感じて欲しい」と考えておりますので、是非各イベントに積極的にご参加いただき、国際交流の第一歩を踏み出して欲しいと期待しております。

良質な国際交流経験をバックアップ

昨年度から本学では、新たに協定校以外の大学3校を「Buddy School」として追加しました。各学部の留学プログラムも益々充実したものになるでしょう。これに伴い危機管理体制の今以上の強化を大学として検討しております。派遣される学生が無事に良質な経験をえられることを提供します。

一方では、本学に来る留学生が日本での学びをより深め、充実した学生生活を送ることができるよう環境を整備していくことも必要となってくるでしょう。このような環境の整備には、経験と知識を持った国際交流課の職員の方々が大きな役割を果たします。また、将来的には外国人留学生を対象とした日本語教育の充実や、英語による授業のみで卒業できるコースの実現も必要になってくるでしょう。

国際交流課の発足は、こうしたビジョンを具現化するための大きな一歩となります。大学での国際交流は、留学を通じて、そしてキャンパスの留学生との対話から、様々な言語、価値観を持つ人々と誠実に対等な関係を築き、尊重し合える人間としての基礎を作る絶好の機会を提供するのです。



去る5月9日（木）16時より本学豊平校舎16番教室にて『韓国協定校専門委員会』主催の「大田 DAY」が開催されました。これは本学韓国協定校である「大田大学校」所在地である大田広域市について知っていただき、興味を持っていただくと共に、交換留学生として本学で学んでいる大田大学校学生と交流することで世界に拓いた視野を持っていただきたいこと、大田大学校への留学案内やこれを機会に国際交流を体感することを期待し、毎年同時期に企画・開催しております。

今年は16名の学生が参加し、大田大学校からの交換留学生5名による大田大学校のプレゼンや経済学部辻教授（韓国語担当）による大田広域市に関する歴史や現状等の説明、交換留学生のリードによる韓国伝統文化体験等を通して、大いに交流を深めました。

Multilingual Meetup —Chinese DAY, English DAY, Korean DAY—



Chinese DAY



English DAY



学校法人北海学園には大学2校（北海学園大学・北海商科大学）と高校2校（北海高校・北海学園札幌高校）が設置されております。このスケールメリットを活かして、現在各校に交換留学で来ている留学生（韓国・中国・ニュージーランド）や交換教授（カナダ）また各校の外国語担当教員に協力をいただき、大学生・高校生の垣根を取り払った言語交流・文化交流として「Multilingual Meetup」を開催しております。

それぞれの国から来ている留学生や教員とその国の言語で会話を通して、新たな価値観を知ることや自分の語学力を向上させることができるだけではなく、友人となり今後も交流が来ると参加学生からも好評をいただいております。本イベントを通して、それぞれの国の言語・文化的側面だけではなく、海外へ留学を行う熱意に触れることで、世界情勢にも興味を持ってもらい留学に対する熱意が涵養されることを期待しております。円安が進む昨今、中々リアルな留学が難しいという学生も多いと大学としては感じておりますので、この企画に積極的に参加し、自分の視野を広げる機会を持ってみてはいかがでしょうか。



新 機関長に聞く！

今年度新しく就任した教務センター長・北原博法学部教授、学生部長・宮入隆経済学部教授、キャリア支援センター長・佐藤大輔経営学部教授に、今度の取り組みや抱負などを伺った。

キャリア支援センター長
さとう だいすけ 経営学部教授
佐藤 大輔

―キャリア支援センター長としての抱負をお聞かせください。

大学教育のあり方を改革する一つの手段として、キャリア支援センターでの役割を果たしたいです。就職部のサポートにとどまらず、4年間を通じてキャ

リア形成を支援することで、より意義ある教育を提供したいと考えています。学外の企業や自治体の人、地域の人と関わりながらできる仕事を生かしながら、学生たちに本当に意味のある教育を提供し、2年間の任期の中で、できる限りのことを実現し、学生たちの成長を支援したいです。

―キャリア支援センターで特に力を入れている点は何ですか？

仕事柄、学外の企業とお付き合いする

ことがたくさんあって、その中で「もっとこういう人を育ててほしい」とか、「地域で優秀な人がいなくて困っている」という大学に対する期待の声もいたくんです。それにいかに応えていくことができるか。地域の持っている力が、必要なものかと思っています。

―今後、どのようなことが大切になりますか。

教育システムの中で正解を求められ続けて、自分なりの答えを出すことが評価されなくなると、やがてクリエイティブティ

―学生へのアドバイス。

自分がやりたいことや、やるべきことを外部から与えられるのではなく、自然に自分の中から湧き上がるものを大切にしてください。それができると、自

分がやらなきゃいけないのは、学生たちにもっと自由に考えさせること、そしてその自由な考えを尊重することなんです。正解がない事柄に直面したときに、頼ってもらえる気概を持つ人であってほしいです。

―先生の休日の過ごし方や、趣味について教えてください。

趣味と言えませんが、子どもに直接会えるPTAをやっていて、例えば、子どもたちに絵本の読み聞かせをしています。反応がとてもおもしろいんですよ。

休日は、犬の散歩をしたり、

正解がない事柄に
自分の答えを作れるように

―学生へのアドバイス。

自分がやりたいことや、やるべきことを外部から与えられるのではなく、自然に自分の中から湧き上がるものを大切にしてください。それができると、自

分がやらなきゃいけないのは、学生たちにもっと自由に考えさせること、そしてその自由な考えを尊重することなんです。正解がない事柄に直面したときに、頼ってもらえる気概を持つ人であってほしいです。

―先生の休日の過ごし方や、趣味について教えてください。

趣味と言えませんが、子どもに直接会えるPTAをやっていて、例えば、子どもたちに絵本の読み聞かせをしています。反応がとてもおもしろいんですよ。

休日は、犬の散歩をしたり、

教務センター長
きたはら ひろし 法学部教授
北原 博

社会教育主事、学芸員などの課程、教室等の教育施設を担当している部署です。地味ではありますが、ルーティンの仕事をきちんとこなすことで教育環境を整えつつ、より充実した一般教育・課程の教育を提供していきたいと思っています。

―今後、どのようなことが大切になりますか。

大学は教育機関ですから、常に教育の充実を図っていく必要があります。もちろん学部が担っている専門教育は重要ですが、一般教育でも社会から一層支持される北海学園大学になるよう見直しを進めていく必要があると思っています。

―学生へのアドバイス。

センター長としては、学生としてではなく、一教員として二点お話しします。

まず、学びの成果をすぐ求めるのではなく、大学の学びは単なる知識の蓄積ではなく、未知の問題を解決する力を身に付けること

―先生のおすすめの本

北原先生の「ファウスト」(ゲーテの「ファウスト」)翻訳多数をお勧めします。ファウストは個人の営み、人類の営みをすべてが身で体験しようとする貪欲な人物です。しかもそれに付随する迷いをゲーテは肯定しようとしています。「ファウスト」に限らず、古典とされる作品には読み継がれるだけの価値があります。学生時代にいろいろな古典に触れてみてください。

―学生部長としての抱負をお聞かせください。

学生部長になってまだ数ヶ月ですが、4月から多くの学生さんが学生部の窓口を訪れ、それに対応している職員の方々を見て、早く業務を覚えなければという気になります。

学生部は、快適で健康な充実した学生生活を送ってもらうために存在しています。課外活動や奨学金に関すること、福利厚生に関することや障がいをもつ学生の支援など幅広く担当しています。多様化するニーズに寄り添うことが大切になってくると思います。

―学生部で特に力を入れている点は何ですか？

コロナ禍を経て動き出した様々な仕組みも、継続が改善か、見直しが必要だと思います。今後、どのようなことが大切になりますか。

思い起こせば、私自身が「団塊ジュニア」と呼ばれる世代で、就職氷河期第1世代にも属しています。バブルが崩壊して、平成不況の突入とともに学生時代を過ごし、2回も留年し、先の見えない不安な時期を送ったこと

学生部長
みやいり たかし 経済学部教授
宮入 隆

困難を感じている皆さんの相談に応じ、特別な支援を必要とする学生のために「アクセシビリティ支援委員会」を設置しています。一人ひとりの悩みや求める支援内容は、同じものはありません。近年の学生支援は、より個々人の事情が重視される方向にあります。一方で、限られた人員で、個性の高い案件に対応することには限界があります。ですから、新しい取り組みの中で経験を積み、効果的に活かす仕組みが求められます。

―先生のおすすめの本

宮入先生のおすすめの本『お隣の外国人 北海道で働く』(北海道新聞社、2022年)をお勧めします。北海道は働く外国人を必要とする社会がきます。ぜひ一連の論考を読んでみてください。

教員と職員が立場を越えて
議論し協働する環境を作りたい

―今後、どのようなことが大切になりますか。

大学は教育機関ですから、常に教育の充実を図っていく必要があります。もちろん学部が担っている専門教育は重要ですが、一般教育でも社会から一層支持される北海学園大学になるよう見直しを進めていく必要があると思っています。

―学生へのアドバイス。

センター長としては、学生としてではなく、一教員として二点お話しします。

まず、学びの成果をすぐ求めるのではなく、大学の学びは単なる知識の蓄積ではなく、未知の問題を解決する力を身に付けること

―先生のおすすめの本

北原先生の「ファウスト」(ゲーテの「ファウスト」)翻訳多数をお勧めします。ファウストは個人の営み、人類の営みをすべてが身で体験しようとする貪欲な人物です。しかもそれに付随する迷いをゲーテは肯定しようとしています。「ファウスト」に限らず、古典とされる作品には読み継がれるだけの価値があります。学生時代にいろいろな古典に触れてみてください。

―学生部長としての抱負をお聞かせください。

学生部長になってまだ数ヶ月ですが、4月から多くの学生さんが学生部の窓口を訪れ、それに対応している職員の方々を見て、早く業務を覚えなければという気になります。

学生部は、快適で健康な充実した学生生活を送ってもらうために存在しています。課外活動や奨学金に関すること、福利厚生に関することや障がいをもつ学生の支援など幅広く担当しています。多様化するニーズに寄り添うことが大切になってくると思います。

―学生部で特に力を入れている点は何ですか？

コロナ禍を経て動き出した様々な仕組みも、継続が改善か、見直しが必要だと思います。今後、どのようなことが大切になりますか。

思い起こせば、私自身が「団塊ジュニア」と呼ばれる世代で、就職氷河期第1世代にも属しています。バブルが崩壊して、平成不況の突入とともに学生時代を過ごし、2回も留年し、先の見えない不安な時期を送ったこと

多様化するニーズに寄り添う支援を

―先生のおすすめの本

宮入先生のおすすめの本『お隣の外国人 北海道で働く』(北海道新聞社、2022年)をお勧めします。北海道は働く外国人を必要とする社会がきます。ぜひ一連の論考を読んでみてください。

私の学び

人文学部日本文化学科3年

きや みお う
木谷 美桜

第23回「漢語橋」世界大學生中国語コンテストの授賞式の直後

私が中国語に出会ったのは大学に入ってからでした。私が中国語を学習すると決めた理由は、母語話者が多く様々な人とコミュニケーションがとれると思ったからです。このような小さな理由で学習し始めた中国語ですが、学んでいくうちに中国語の持つ魅力に気づき、言語や文化



左から、安藤里紗さん、木谷美桜さん、河合杏香さん

第5回全日本大學生中国語スピーチコンテスト・第23回「漢語橋」世界大學生中国語コンテスト 日本予選大会で2等賞 合香さんが優秀賞を受賞した。

これにより、木谷さんが6月22日に早稲田大学で開催された日本予選大会に出場し、見事、2等賞を受賞した。工学部・楊教授が優秀指導教員賞を受賞。

木谷さんの受賞に伴い、工学部の楊安那教授が「優秀指導教員賞」を受賞した。

沼田町空き家リノベーション・プロジェクト2024



新たに壁するため丁寧に採寸



あんどん紙貼り体験

工学部建築学科で岡本研究室を中心に2017年度から実施している沼田町空き家リノベーション活動が、2巡目は7月17日から3泊4日で、1巡目の続きを行っています。

4月23日の実測調査後、5月31日に沼田町を訪れ、今年度のテーマ「ボーダーレス・シェアハウス」で3案をプレゼンテーション。翌日は採用案に沿って部分解体を行った。1巡目は6月20日から3泊4日で、吹抜けの開放、断熱の検討、和室の床の高上げを行った。2巡目は7月17日から3泊4日で、1巡目の続きを行っています。

た。2、3日目の夜には、夜高あんどん祭りの太鼓台車に飾られるあんどんの紙貼りを体験した。このプロジェクトは、地域まちづくりへの貢献と、学生が実体験を通じて建築や地域と向き合う機会の創出を担っている。



学園人脈記

第28回

北海道新聞 岩内支局長

記者・ルポライター 酒井 聡平 氏

人文学部英米文化学科 平成11年度卒・4期生

酒井さんも、上陸を決意してから十三年間様々な手を

多種多様な業界で活躍する同窓生をリレー形式で連載している「人脈記」。今回は、北海道新聞岩内支局長の酒井聡平さんを紹介する。

酒井さん初の著書『硫黄島上陸 友軍八地下二在り』(講談社、2023年)が第11回山本美香記念国際ジャーナリスト賞を受賞した。平井さんは北海道新聞の記者として働きながら、土・日曜日は戦争などの歴史取材をする「旧聞記者」として活動している。この書籍は、酒井さんと硫黄島との関わりが描かれている。

硫黄島の歴史を徹底調査の著書 第11回山本美香記念国際ジャーナリスト賞を受賞

「私の祖父は、硫黄島の電報を受け取る父島にいた兵士でした。その長男である私の父は私が十歳のときに亡くなり、祖父の話を聞くことはできませんでした。世の中に情報発信する新聞記者という職業を選んだ自分は、硫黄島のことを伝えるために生まれてきたんだらうと思うようになったんです」

大学卒業後、苫小牧民報社に就職した際、硫黄島の戦没者遺児と出会った。その人は硫黄島での遺骨収集事業に何度も参加しており、酒井さんも硫黄島に遺骨が残る現状を知ることとなった。「硫黄島報道とともに自分も現地で土を掘ろう、祖父の仲間の遺骨を一人でも本土に返そう」という思いが強くなったという。

硫黄島は自衛隊が管理する島で、誰でも上陸できるわけではない。遺骨収集に参加できるのも、遺族や許可を得た関係者に限られる。酒井さんも、上陸を決意してから十三年間様々な手を

「大学のお金が無い旅だったので、どこでも現地の生活水準以下の衣食住で過ごしました。信じられないくらい貧困な状況にある方々との交流が多くあり、こういった社会からこぼれ落ちた方々に光を当てられるような仕事に就きたいという思いに至って、結局映画ではなく新聞社の道を選ぶことになりました」

「大学のお金が無い旅だったので、どこでも現地の生活水準以下の衣食住で過ごしました。信じられないくらい貧困な状況にある方々との交流が多くあり、こういった社会からこぼれ落ちた方々に光を当てられるような仕事に就きたいという思いに至って、結局映画ではなく新聞社の道を選ぶことになりました」

「大学の講義も大変血となり肉となりましたが、主体的に知識を得る機会があり、本当に良い学園生活でした。学生時代にたくさん本を読んだインプットがあったから、今の仕事でアウトプットできていると思います。立派な図書館があるのですから、最大限活用してほしいです」



『硫黄島上陸 友軍八地下二在り』 酒井聡平 著 (講談社 2023年)



レスブリッジ大学を卒業した筆者

「ダブルディグリー・プログラムは私にとって大きな挑戦であり、成長の機会でした。第一号生として前例のない挑戦は辛い時もありました。最初の一年は異国での生活に疲れ、日本が恋しくなることも多くありました。期待に応えようと必死になり、学校と家の往

復になっ てしまっ ましたが、 学ぶこと に魅力を感じま した。二年目には、自分の時間 を大切にす る姿勢をカナダの 人々から学び、友達と様々な 場所を訪れて多くの経験を 得ました。もっと早く積極的 に行動していればと思うことも ありますが、最初の一年を無駄 にしたとは思っていません。 今しかできないことに真剣に 向き合えたことに喜びを感じ ます。家族や教授、仲間の励ま しとサポートがなければ、この 挑戦を乗り越えることはでき ませんでした。ありが とがございました。 留学を通しての学びと 交流は、私の人生にお いて貴重なものとなり ました。これからもこの 経験に胸に、新たな 挑戦に向かっていき たいと思います。



西松建設株式会社 札幌支店 北電上川出張所 主任 金子 稜太 工学部社会環境工学科 2015年度卒・11期生

北海道上川町は、四季折々の壮大な自然美で、訪れる人々を魅了している。豊かな森と澄み渡る川が特徴だ。冬は雪景色が一面を覆い、夏には緑豊かな草原が広がる。

山本順平さんは教員免許を取得し、法学部法律学科を卒業後に教員の道を歩み始めた。大学時代の基礎ゼミで出会った仲間との絆が彼の学びと成長に大きな影響を与えた。札幌に出て初めてのコミュニティとなったゼミは、彼にとって特別な存在だったという。



バーテンダー 山本 順平 法学部法律学科 2007年度卒・II 42期生

将来的には現場所長になることを目指している金子さんは「現場経験を積み重ね、計画や工程管理のスキルも磨いていきたい」と抱負を語った。最後に、学生へのメッセージとして「インターンシップなどを通して仕事を知り、就職活動に役立ててほしい」とアドバイスを送る。

多彩な才能で教育と地域貢献を実現 活動は地域社会にとって不可欠な存在になるだろう。教育者だった経験を生かして、地元のお寺の庭でのボランティア活動やNPO法人との協力を通じて、子供たちに教育の機会を提供している。お寺を借りて行われる活動では、学校に行くのが難しい子供たちも含め、みんなで畑を耕したり、写経

を体験して楽しんでいる。畑ではじゃがいもやトマトを育て、クラス対策や水やり、収穫も子供たちと一緒にやる。自然との触れ合いや共同作業を通じて彼らの成長と社会参加を促進し、新しい友達を作る機会にもなっている。山本さんは、子供たちの未来を支援する活動に自信を深めている。 これからの学生たちへ、自らの経験から「挫折や失敗は成長の機会であり、それ乗り越えることが自分自身の強さを見出す一歩となる。自分の夢や目標に向かって進む中で、地域や社会への貢献を意識することが大切だ。また、人とのつながりやコミュニティの力を信じ、その中で自分の可能性を広げていくことも忘れないでほしい」とエールを送った。



柔道部のメンバー



剣道部のメンバー

キャリア支援センター就活情報

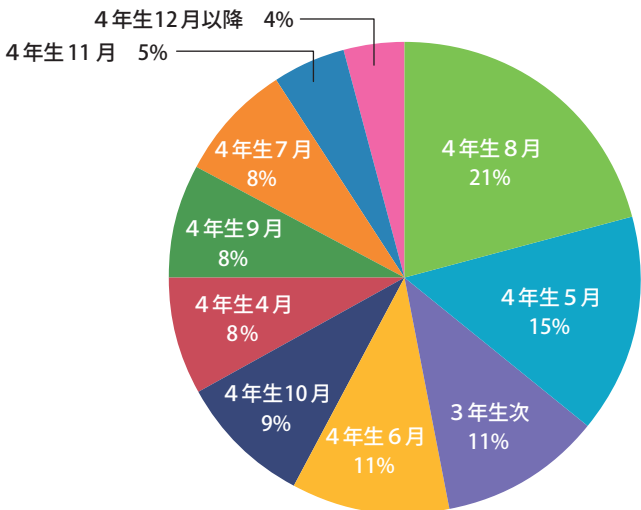
4年生
就活事情

【求人動向について】

2024年7月1日現在、本学に求人票を提出している企業数は11,474社となり、前年同期の10,729社より増加しております。また、株式会社リクルートの調査によると、2025年卒の大卒求人倍率は1.75倍で、2024年卒の1.71倍から0.04ポイント上昇し、企業が引き続き高い採用意欲を持っていることを示しています。その裏付けとして、一般社団法人労務行政研究所が行った調査では2025年新卒者の初任給について、52.2%の企業が「引き上げた」と回答しています。初任給を引き上げる理由としては、「人材を確保するため」が8割以上と最も多くなっています。また、

学生の側から見ても、初任給が引き上げられる企業に対する志望度が高まる傾向が見られています。

決定就職先の内定取得時期
(2024年3月卒業生アンケートより)



3年生
これからの就活

2026年3月卒業予定学生の就職活動は早め始めることが大切です。特に、民間企業と公務員の選考プロセスは異なりますので、それぞれの特性を理解し、適切な準備をすることが求められます。

まず、民間企業については、近年は夏季休業中に実施されるインターンシップからの早期選考が増えています。これは、企業が優秀な学生を早期に確保するための戦略であり、学生にとっては自分が働きたい企業を早期に見つけるチャンスでもあります。しかし、早期選考に参加するためには、自己分析や業界分析などのスキルが必要で、自己分析では、自分の強みや弱み、価値観、キャリアゴールなどを明確にすることが求められます。業界分析では、自分が興味を持つ業界の動向や、求められるスキル、働く上でのメリットやデメリットなどを理解することが重要です。これらのスキルを身に付けるためには、日々の学習やアルバイト、サークル活動などを通じて経験を積み重ねることが大切です。

次に、公務員については、

くある質問への回答を練習し、自分を最もよく表現できるように準備しましょう。

今年度より本学への来訪企業とキャリア支援センターにおける面談記録を、ミナトコムを通じて閲覧することが出来ます。また、必要に応じて特定の業種を検索したり、比較することもできますので、本学学生に関心のある企業をぜひチェックしてください。今後、秋から冬にかけても2025年卒の求人活動を行っている企業は数多くありますので、就職に係る相談があれば気軽にキャリア支援センターを利用してください。

が、都市部を中心に公務員人気が高まっています。公務員試験は、一般的には知識を問う筆記試験と人物を見る面接試験の二段階で行われます。最近では、民間企業でよく用いられるSPI3やSCOAなどの筆記試験も導入されています。これらの試験は、一般常識、数的処理、言語理解などを問うもので、日頃から新聞を読んだり、問題集で学習したりすることで対策をすることが可能です。また、面接試験では、自己PRや志望動機、困難をどのように乗り越えたかなどを問われることが多いです。これらの質問に対しては、具体的なエピソードを用いて答えることで、自分の人柄や考え方を伝えることが出来ます。

以上のように、民間企業と公務員では求められるスキルや選考プロセスが異なります。自分がどのようなキャリアを歩みたいのか、どのような働き方を求めているのかを考え、それに合わせて適切な準備をすることが大切です。就職活動は自分自身を見つめ直す良い機会でもあり、この機会を活かして、自身の可能性を広げていきましょう。皆さんの就職活動が成功することを心から願っています。

2年生
これからの就活

大学2年生の就職活動においては、自己分析、業界研究、企業主催のオープンカンパニーへの参加、資格の取得への取り組みが重要です。実際の職場の説明会を聞き、自分の強みや弱みを理解し、興味のある業界や企業を調査しておくことで、3年生になった時にインターンシップやその後の選考活動に有利に働けます。また、公務員を目指している学生は2年生から公務員対策講座を行いますので、10月の説明会にぜひ参加してください。



職業体験を行った岩本果穂さん

図書館で職業体験

6月24・25日の2日間、北海道札幌視覚支援学校高等部普通科の2年生・岩本果穂さんが、本学附属図書館で職業体験を行いました。大学図書館の役割や仕事内容などを確認し、文献複写・相互貸借・選書・発注・装備・図書の貸出・返却などを体験しました。

学長室訪問

△6月14日 札幌特別支援大学会長 高橋一彦氏、畑田昌良氏
△6月28日 札幌視覚支援学校校長 横山慎氏、河村真理氏
△7月3日 北海道新聞ポットメディア代表取締役社長 佐藤正広氏
△7月12日 北海道グリーン・システム株式会社代表取締役 木本剛氏、執行役員 寺林剛氏、営業部長 橋本純氏
△7月23日 済美大学学長 高橋孝典氏
△7月26日 文芸春秋文庫編集部 高倉副氏、業務部長 堀山孝一氏
△8月6日 北海道図書館協会 事務部長 佐藤裕司氏、武蔵和男氏、北海道農業部長 佐藤典氏、池内直氏

OPEN CAMPUS 2024



春・夏のオープンキャンパス

今年も、春・夏・秋の3回のオープンキャンパスを開催を計画しております。その第1回目となるイベントを6月23日(日)に豊平キャンパスと山鼻キャンパス、第2回は、8月9日(金)と10日(土)に豊平キャンパスと山鼻キャンパスで実施しました。各日、申込制といたしま



学内ツアーの様子(豊平)



工学部ショールーム(山鼻)

当日は、山鼻キャンパスと豊平キャンパス間の無料シャトルバスも運行しました。今後は、秋のオープンキャンパスとして9月29日(日)は春・夏同様様々な内容で行われる予定ですが、申込みは8月30日(金)から始まります。

ミニオープンキャンパス

ミニオープンキャンパスは、道内6都市にて、日ごろの疑問・質問を解消していただく学/保護者向け説明会、在学生オンラインTALK、入在地の札幌以外で行う本学単独のイベントです。今年度の日程は、7月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)の4日間、計6回開催いたします。皆さまにご来場いただきます。



個別相談の様子

【開催会場】
7月20日(土) 北見／北見市民会館、函館／Gスクエア、7月21日(日) 旭川／旭川北洋ビル、室蘭／室蘭市生涯学習センター・きらん、7月27日(土) 釧路／まなぼとと略舞、7月28日(日) 帯広／とかちプラザ

第70回

対東北学院大学総合定期戦



両校の応援団

第70回 定期戦成績	
公式種目	試合結果
アイスホッケー	33 0
アメリカンフットボール	中止
空手道	中止
弓道(男子)	120 94
弓道(女子)	56 59
剣道	5 2
硬式野球	中止
ゴルフ	2 1
サッカー	6 1
柔道	3 2
準硬式野球	7 2
少林寺拳法	15 5
ソフトテニス(男子)	3 2
卓球(男子)	6 1
軟式野球	7 1
バスケットボール(男子)	79 66
バスケットボール(女子)	98 42
羽球(男子)	3 2
バレーボール(男子)	3 0
バレーボール(女子)	3 0
ハンドボール	中止
ボクシング	0 1
ライフル射撃	1723.4 1671.9
ラクロス(男子)	1 7
ラクロス(女子)	1 5
ラクロス 総合	36 6

※勝ち2点、引き分け1点、負け0点
※本期間一か月以上前開催及び本期間後開催の種目は交流戦とする(総合成績に含めない)

オープン種目	
試合結果	
硬式野球(男子)	7 2
硬式野球(女子)	中止
ソフトテニス(女子)	3 0
羽球(女子)	3 2
卓球(女子)	中止

1955年から始まった対東北学院大学総合定期戦が第70回を迎えた。今年は6月21～23日の3日間、仙台にて行われた。これは、体育を通じて両校の親睦を図るとともに、運動精神の昂揚と体育実技の向上を目的として毎年開催されている。5年ぶりにパレードも行われ、どの競技も熱戦が繰り広げられたが、健闘及ばず東北学院大学が総合優勝をおさめた。

来年は札幌で開催予定。